

ルワンダ月報（2024年12月）

※以下は、ルワンダ主要メディア（RNA、New Times等）の記事取りまとめ。

1. 政治・外交

カガメ大統領は、カタールで開かれた、ドーハ・フォーラムに出席（7～8日）。ブレンデ世界経済フォーラム会長と面談し、2025年4月にルワンダで開催が予定されているAIサミットについて協議した。

カガメ大統領は、モーリタリアで開催された教育と若者の雇用に関する大陸フォーラムにも出席（9～10日）し、教育への戦略的資源配分の必要性を強調した。また、同大統領はフォーラムの傍ら、テブン・アルジェリア大統領と会談し、農業やインフラ分野などでの二国間関係の強化について協議した。

その他外交面では、カガメ大統領は、予定されていたルアンダにおけるアンゴラ・コンゴ（民）との三国間首脳会合に不参加。ルワンダ政府は、コンゴ（民）政府とM23が直接対話を行うことが累次の会合で既に合意された内容であるにも関わらず、この点について15日の首脳会合前日に行われた外相会合でコンゴ（民）側が右合意内容を文書に反映させることを拒否し、コンセンサスに至らなかったことを右会合の不参加理由としている。コンゴ（民）東部問題の沈静化に向けた右会合は開催されなかったものの、カガメ大統領は31日の年末スピーチで、ルワンダの安全と主権は必要なあらゆる手段によって完全に守られることを保証すると述べた。

内政においては、21日、閣僚の一部交代が発表され、スポーツ大臣にネリー・ムカザイレ氏（前スポーツ省次官）が就任した。

また、開発協力に関し、アフリカ開発銀行は、キガリ市及び周辺地域の交通改善プロジェクトのための1億米ドルの融資を承認した他、ドイツ開発銀行は気候変動対策のための2,097万ユーロの無償供与に署名し、アブダビ開発基金はキガリ市内の送配水システム強化のための約2,500万米ドルの融資契約に署名した。さらに、国連は第二次国家変革戦略（NST2）の実施支援のために、10億米ドル以上拠出することを表明した。

2. 経済

ルワンダ経済に関して、ルワンダの第3四半期のGDP成長率は8.1%であり、分野別では農業4%増、工業8%増、サービス業10%増となった。IMFの見通しでは、年間成長率は7%に達する。

3. その他

マールブルグ病に関し、5日、米国は21日間以上のルワンダ滞在者に対する公衆衛生の入国審査を終了し、ルワンダ政府は20日、42日間新規患者が報告されなかったことから終息を宣言した。

スポーツに関し、17日にキガリで開催された国際自動車連盟（FIA）総

会において、カガメ大統領はルワンダのF 1 招致を宣言した。なお、ルワンダには現状サーキットがないものの、同建設予定地は2028年に完工が見込まれる新国際空港建設中のブゲセラと見られる。